

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 3 日（土） 9：59～11：48

場 所：中里公民館

出席者：10 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※資料確認
3. 説明事項
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
※質疑応答
4. 懇談
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）
※自由懇談
5. 閉会

《懇談会内容》

意見：人口減少の大きな原因は、栗山町に働く場所が少ないことだと思う。人口減少は町のさまざまな問題（栗山高校の生徒減少など）の誘因となるため、もっとシビアに捉えるべき。問題一つひとつに対処するより、根本的な解決をもたらす特効薬となり得る施策を講じるべきではないか。

町長：人口減少に対する特効薬はない。問題ごとに施策を講じ続け、町の総合力を維持するしかない。

意見：栗山町は札幌に近いため日赤、北電、道警職員から赴任先として人気があると聞いた。私も 20 年以上住んでいるが良い町だと思う。栗山町には魅力が沢山あるのだから、人の誘致に励んで欲しい。

町長：本町は家賃、水道料金が低いといった欠点がある。団地の新築など、町外からの受入態勢も整えているが誘致は容易ではない。今後も努力は続けたい。

質疑：日赤の改築費用は、誰がどの程度負担するのか。日赤本社から取り計らいなどはあるのか。

町長：改築費は試算 55 億円。日赤の経営は病院ごとに独立しているため、日赤本社の負担はない。日赤が本社へ 15 億円、町が国へ 40 億円借金することで費用を賄う予定である。40 億円の内 7 割が交付税として支給されるとはいえ、3 割（12 億円）は本町にとって重い負担。日赤（本社込）と協議する必要がある。他の町では広域で拠点となる病院をつくるという例もあるが、資金の負担割合など政治的な調整が難しいので現存する病院を大事にしたい。

町長：介護福祉学校に関しては国へ財政支援を求めているが、「そこまでして町でやる必要はあるのか」と言われ支援は厳しい状態。栗山高校への対策は福祉に関する高専部門をつくるのも手段の一つと思う。栗山町スキー場は本町唯一の屋外レクリエーション施設であり、教育の場でもある。私は存続が必要な施設だと考えている。